

市民がつくる復興ロードマッププロジェクト 概要

背景：震災5年。自治体が定めたビジョンや計画は“自分事”になりやすく、具体的な見通しや指標を立てることが難しい

市民やコミュニティ、また支援者が自ら現状を確認し、復興の具体的な見通しを立てるためのツールが必要

目的：①多様な担い手が、復興の過程（見通し）と果たすべき役割を確認できる復興の見取り図（問い）となること

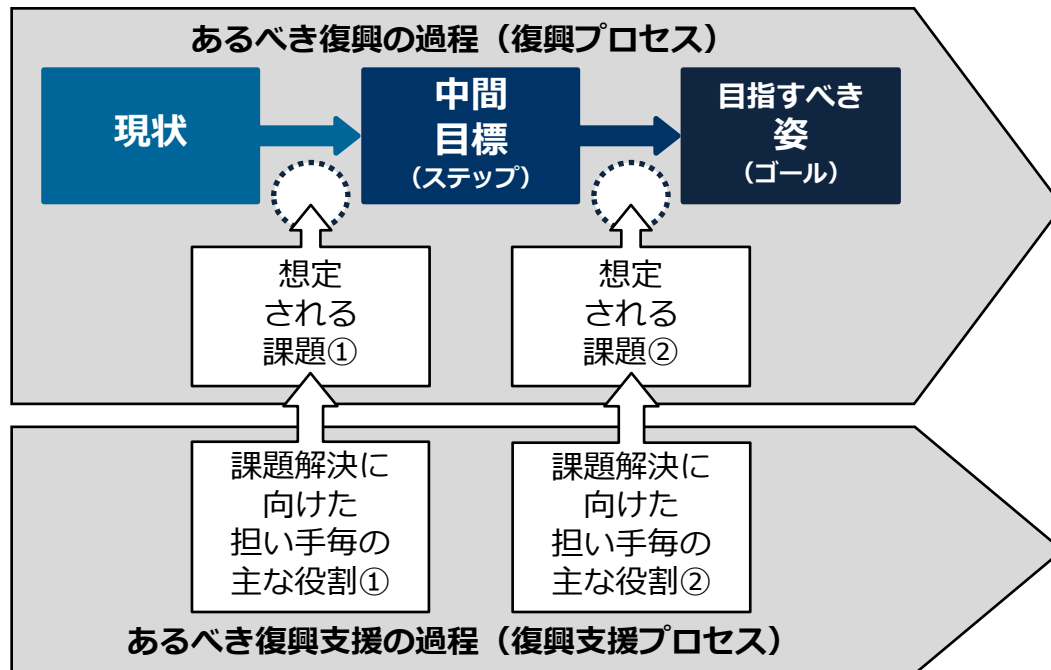
②今後起こり得る災害復興の一手法、また東日本大震災の経験を伝えるツールとなり得る

期間：2020年までは継続予定（2015～2016年度の二か年は中央共同募金会による助成により骨子作成）

－2015年度はロードマップ第一稿を発表／2016年度は実践・検証等を通し第二稿を発表予定

主体：三県の連携復興センター、阪神淡路・新潟中越の復興まちづくり実践者等を交えた作成委員会を構成

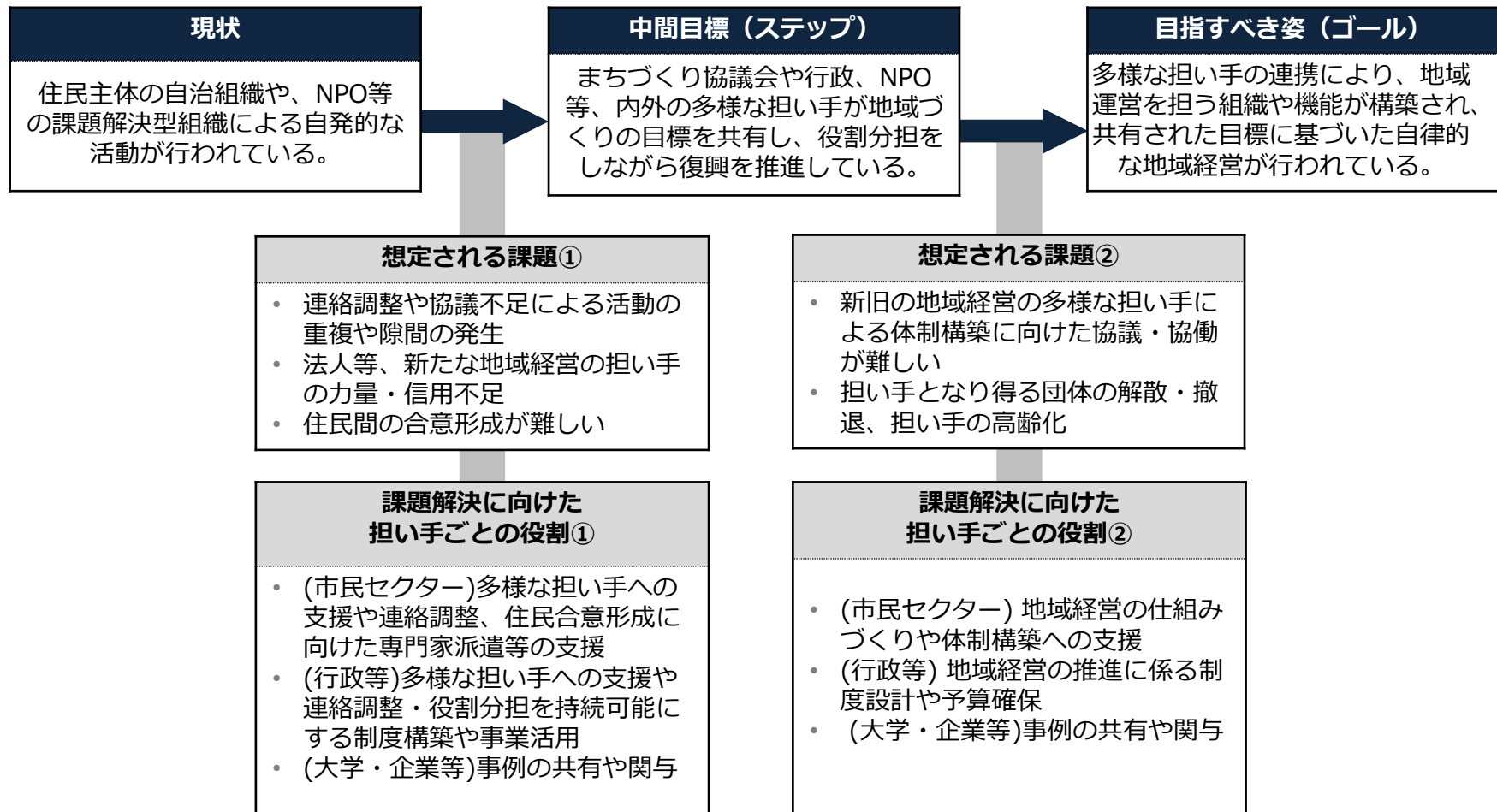
本ロードマップの記述方法



1) 多様な担い手による自律的な地域経営

<基本的な考え方>

- 多様な担い手の参画を得た復興の推進から、戦略的・組織的な地域の経営体制を構築する
- そのためには、行政のみではなく多様な担い手により復興を推進する視点を持ち、復興の各段階において多様な担い手による適材適所の参画・協働を得て、復興期の経験を平時の地域経営体制の構築につなげていく必要がある



市民がつくる復興ロードマップを用いた 地域・団体・ネットワーク等での議論・検討

地域WS

- ①タタキ台に対しての進捗状況（認識）の認識（緑）→作成したいテーマの選出（赤）→ロードマップの作成
- タタキ台との「差や共通点」、個人の進捗状況の認識の「差や共通点」を確認・共有する
- 「最近では集まって議論する場自体が無かった。改めて議論出来て良かった」との声も



2. 被災者の暮らしを支える組織の形成

2) NPO等、地域の課題解決や新たな価値づくりに取り組む組織の形成

＜基本的な考え方＞

- 被災した地域に住む住民自身が、地域の価値創造や課題解決を目指し、主体的な活動をはじめよう
- 被災した地域に住む個人が集まり、住民発意に基づくNPO等の組織が形成され、多様な取り組みにより地域的に被災者の暮らしが支えられ、地域と組織の協働関係が構築されている状況を目指す

現状	中間目標（ステップ1）	中間目標（ステップ2）	目指すべき姿（ゴール）
被災地の未来や課題を考えた個人が存在している。	地域の未来や課題を考えた個人が、その想いをまとめている。	地域の人々の協力を考え、主体的な活動をはじめよう。	被災地の未来や課題を考えた個人が、その想いをまとめている。地域の人々の協力を考え、主体的な活動をはじめよう。地域と組織の協働関係が構築されている。
想定される課題1 ・思いを共有し、まとめるための仕組みの不足 ・新しいことに取り組むために、失敗できる環境が不足している	想定される課題1 ・地域で活動したい住民の数が少ない ・有志による活動の場や活動の機会が不足している	想定される課題1 ・継続的な活動に向けた組織基盤の構築や関係構築 ・価値創造や課題解決を図るための知識、ノウハウの不足	
課題解決に向けた担い手ごとの役割1 ・（市民セクター）地域の課題や未来を考えた個人、新たな組織や組織の発足 ・（市民セクター）地域の課題や未来を考えた個人、新たな組織や組織の発足 ・（市民セクター）地域の課題や未来を考えた個人、新たな組織や組織の発足	課題解決に向けた担い手ごとの役割1 ・（市民セクター）地域の課題や未来を考えた個人、新たな組織や組織の発足 ・（市民セクター）地域の課題や未来を考えた個人、新たな組織や組織の発足 ・（市民セクター）地域の課題や未来を考えた個人、新たな組織や組織の発足	課題解決に向けた担い手ごとの役割1 ・（市民セクター）地域の課題や未来を考えた個人、新たな組織や組織の発足 ・（市民セクター）地域の課題や未来を考えた個人、新たな組織や組織の発足 ・（市民セクター）地域の課題や未来を考えた個人、新たな組織や組織の発足	

3. 豊かに暮らせる地域づくり

1) 多様な担い手による自律的な地域経営

＜基本的な考え方＞

- 多様な担い手の参画を得た復興の推進から、統一的、組織的な地域の経営体制を構築する
- そのためには、行政のみではなく多様な担い手により復興を推進する視点を持ち、復興の各段階において多様な担い手による連携体制の構築、協働を促す。復興期の経験を平時の地域経営体制の構築につなげていく必要がある

現状	中間目標（ステップ1）	中間目標（ステップ2）	目指すべき姿（ゴール）
住民主体の自治体組織や、NPO等の課題解決を担う自律的な活動が行われている。	まちづくりの協働型行政、NPO等、内外の多様な担い手が増え、協働型行政やまちづくりの協働型行政が推進されている。	多様な担い手の参画により、地域経営を担う組織や組織が構築され、共有された目標に基づき、自律的な地域経営が行われている。	
想定される課題1 ・連携調整や協働不足による活動の連携や協働の発生 ・法人実態、新たな地域経営の担い手の力量・活用不足 ・住民間の合意形成が難しい	想定される課題1 ・新しい地域経営の多様な担い手による体制構築に向けた協働、協働が難しい ・担い手ごとの役割分担の明確化、協働、担い手の協働化	想定される課題1 ・協働型行政やまちづくりの協働型行政の推進 ・協働型行政やまちづくりの協働型行政の推進 ・協働型行政やまちづくりの協働型行政の推進	
課題解決に向けた担い手ごとの役割1 ・（市民セクター）多様な担い手への支援や連携調整。住民の参画を促すための関係構築や協働の促進 ・（市民セクター）多様な担い手への支援や連携調整。住民の参画を促すための関係構築や協働の促進 ・（市民セクター）多様な担い手への支援や連携調整。住民の参画を促すための関係構築や協働の促進	課題解決に向けた担い手ごとの役割1 ・（市民セクター）多様な担い手への支援や連携調整。住民の参画を促すための関係構築や協働の促進 ・（市民セクター）多様な担い手への支援や連携調整。住民の参画を促すための関係構築や協働の促進 ・（市民セクター）多様な担い手への支援や連携調整。住民の参画を促すための関係構築や協働の促進	課題解決に向けた担い手ごとの役割1 ・（市民セクター）多様な担い手への支援や連携調整。住民の参画を促すための関係構築や協働の促進 ・（市民セクター）多様な担い手への支援や連携調整。住民の参画を促すための関係構築や協働の促進 ・（市民セクター）多様な担い手への支援や連携調整。住民の参画を促すための関係構築や協働の促進	

4. 官民による協働の推進

1) 中間支援機能の強化

＜基本的な考え方＞

- 被災地域の自治体において、一定の特性を持つ中間支援機能が構築され、復興や平時の地域づくりに向けて必要な情報や資源の集約、仲介が計画的に計られており、多様な担い手の参画が促進されている状況を目指す
- そのためには、復興に関与した中間支援機能の機能強化が必要である

現状	中間目標（ステップ1）	中間目標（ステップ2）	目指すべき姿（ゴール）
被災地域の自治体において、復興に向けた中間支援機能が存在している。	被災地域の自治体において、復興に向けた中間支援機能が存在している。	被災地域の自治体において、復興に向けた中間支援機能が存在している。	被災地域の自治体において、復興に向けた中間支援機能が存在している。
想定される課題1 ・被災地域の自治体において、復興に向けた中間支援機能が存在している。	想定される課題1 ・被災地域の自治体において、復興に向けた中間支援機能が存在している。	想定される課題1 ・被災地域の自治体において、復興に向けた中間支援機能が存在している。	
課題解決に向けた担い手ごとの役割1 ・（市民セクター）中間支援機能、組織の形成や維持のための情報や資源の集約 ・（市民セクター）中間支援機能、組織の形成や維持のための情報や資源の集約 ・（市民セクター）中間支援機能、組織の形成や維持のための情報や資源の集約	課題解決に向けた担い手ごとの役割1 ・（市民セクター）中間支援機能、組織の形成や維持のための情報や資源の集約 ・（市民セクター）中間支援機能、組織の形成や維持のための情報や資源の集約 ・（市民セクター）中間支援機能、組織の形成や維持のための情報や資源の集約	課題解決に向けた担い手ごとの役割1 ・（市民セクター）中間支援機能、組織の形成や維持のための情報や資源の集約 ・（市民セクター）中間支援機能、組織の形成や維持のための情報や資源の集約 ・（市民セクター）中間支援機能、組織の形成や維持のための情報や資源の集約	

4. 官民による協働の推進

2) 協働の仕組みづくり

＜基本的な考え方＞

- 被災自治体の復興において、復興や平時の地域づくりに向けた官民の協働を実現した事例。またそれに基づき協働の仕組みを構築し、協働を推進する必要がある
- そのためには、協働についての相互理解や共通の目標を形成し、官民による協働を実現するための仕組みを構築する必要がある

現状	中間目標（ステップ1）	中間目標（ステップ2）	目指すべき姿（ゴール）
被災自治体の復興において、復興に向けた官民の協働が実現している。	被災自治体の復興において、復興に向けた官民の協働が実現している。	被災自治体の復興において、復興に向けた官民の協働が実現している。	被災自治体の復興において、復興に向けた官民の協働が実現している。
想定される課題1 ・被災自治体の復興において、復興に向けた官民の協働が実現している。	想定される課題1 ・被災自治体の復興において、復興に向けた官民の協働が実現している。	想定される課題1 ・被災自治体の復興において、復興に向けた官民の協働が実現している。	
課題解決に向けた担い手ごとの役割1 ・（市民セクター）官民協働の推進 ・（市民セクター）官民協働の推進 ・（市民セクター）官民協働の推進	課題解決に向けた担い手ごとの役割1 ・（市民セクター）官民協働の推進 ・（市民セクター）官民協働の推進 ・（市民セクター）官民協働の推進	課題解決に向けた担い手ごとの役割1 ・（市民セクター）官民協働の推進 ・（市民セクター）官民協働の推進 ・（市民セクター）官民協働の推進	

地域やひとと触れ、心身をととのえる / つながりをつくり、深める

リトリート合宿

忙しい日常からふと離れ、さんりくの穏やかな自然の中で、そこに住まうひとびとと触れ合いながら、ゆるやかなひとときを過ごしてみませんか。集ったみなさんでつながりをつくり・深め、心地よく心身をととのえる（=リトリートする）合宿です。

さんりく編



2017年2月24日（金）-25日（土）

南三陸まなびの里いりやど ほか

対象者：復興・被災者支援に取り組むNPO等の職員、社協・行政職員、専門職の方など 40名

参加費：2,000円+レクリエーション体験費用（最大1,000円程度）

お申込はこちらから



締切：2月17日（金）

リトリート合宿

さんりく編 | 2月24日 (金) -25日 (土)

プログラム (予定)

1日目 | 2月24日 (金) 13:30-

オリエンテーション、自己紹介・復興に向けた取り組みの共有、レクリエーション (機織り、そば打ち、郷土料理作り)、夕食、懇親会、宿泊 (南三陸まなびの里いりやど)

2日目 | 2月25日 (土) 9:00-12:00

朝食、オリエンテーション、集落散策プログラム (持ち物: 歩きやすい靴)、2日間のふりかえり (あらたな協働に向けて)

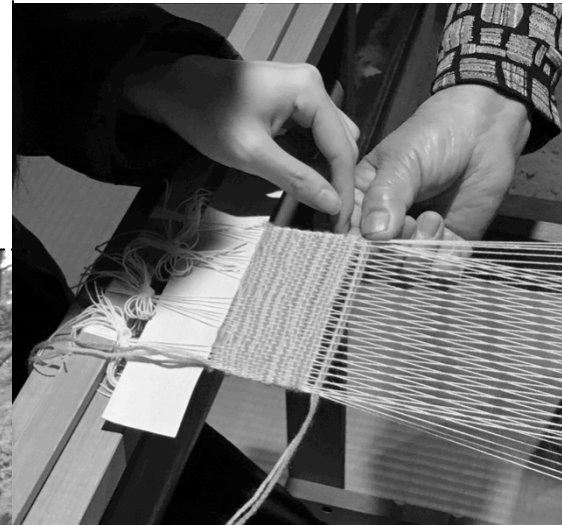
※プログラムはあくまでも予定です。
参加者の要望や天候等によって変更になる場合があります。
あらかじめご了承ください。

※詳しくは事務局にお問い合わせください。

初日レクリエーション

- ①機織りワークショップ
→機織りを体験し作品を製作します (協力: ひころの里)
- ②そば打ち
→そば打ちを体験します (協力: ひころの里)
持ち物: エプロン、三角巾
- ③郷土料理作り
→郷土料理を地域の方に教わります (協力: ばっけの会)
持ち物: エプロン、三角巾

※お申込時に選択ください。
※体験料は参加される方にご負担いただきます。
あらかじめご了承ください (最大1,000円程度)



アクセス

集合場所: 南三陸まなびの里いりやど
宮城県本吉郡南三陸町入谷字鏡石5-3
TEL:0226-25-9501
Webサイト:<http://ms-iriya.jp/>



三陸道・三滝堂ICから志津川方面に車で約10分

申込・お問い合わせ

チラシ表面のQRコードから申込フォームにアクセスいただき、必要事項を送信いただくか、下記電話番号もしくはメールアドレスまでご連絡ください。
(申込締切: 2月17日 (金))

(メールでお申込の方)

①氏名、②所属、③役職・職名、④活動内容 (簡単に構いません)、⑤希望するレクリエーションのプログラム、⑥連絡先 (当日連絡のつく電話番号) を明記の上、送信ください。

<事務局>

(一社) みやぎ連携復興センター 担当: 中沢、高橋

TEL:022-748-4550 E-mail:renpuku@gmail.com



収益に
つなげたい

企業

NPO

関わり方が
わからない

目標やKPIが
見えるとNPO
と協働できる

地域の課題解
決と一緒に関
わって欲しい

東日本大震災から6年。 地域の復興に向けた 企業とNPOの これまでとこれから ダイアログ・セッション

入場無料
事前申込制
どなたでも
ご参加頂けます

開催主旨

震災から6年が経過しますが、解決すべき地域の復興課題は未だ多くあります。NPOと企業の協働による課題解決のさらなる促進をめざし、NPOと企業の取り組みのこれまでを振り返り、これからの在り方を議論する円卓会議を開催します。

対象者

地域の復興に取り組む企業・NPO・行政担当者や、テーマにご関心のある方はどなたでも参加頂けます。

セッションプログラム（2会場共通）

- ① NPOと企業の取組事例の共有
- ② NPOと企業のダイアログ（円卓会議）
- ③ 交流会（ソフトドリンク・お菓子等用意）

定員

40名（定員に達し次第、締切とさせていただきます）

申し込み方法（事前申込制）

本チラシ裏面、もしくはみやぎ連携復興センターウェブサイトより必要事項を記入しお申込み下さい。

FEB
17

気仙沼セッション

日時

2017年2月17日（金）
15:00-18:00（開場14:30）

会場

K-port
気仙沼市港町1-3

MAR
03

女川セッション

日時

2017年3月3日（金）
13:30-17:00（開場13:00）

会場

女川フューチャーセンターCamass
女川町女川浜字大原75-7

FEB 17 気仙沼セッション

取組報告または参加（予定）団体

- ・一般社団法人リアス観光創造プラットフォーム
- ・アサヤ株式会社
- ・一般社団法人気仙沼観光コンベンション協会
- ・ボランティアステーションin気仙沼【New!】
- ・認定NPO法人底上げ【New!】

会場へのアクセス

K-port

気仙沼市港町1-3 TEL: 0226-25-9915



お申込み方法

みやぎ連携復興センターのウェブサイト、またはFAXにてお申込み頂けます。

ウェブサイトからお申込み頂く場合

<http://www.renpuku.org/>

右記QRコードからもお申込み頂けます



MAR 03 女川セッション

取組報告または参加（予定）団体

- ・宮城県中小企業家同友会
- ・ロート製薬株式会社
- ・特定非営利活動法人アスヘノキボウ
- ・積水ハウス株式会社
- ・特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク ほか

両会場とも
随時更新中！
最新情報は
ウェブサイト
でご覧下さい

会場へのアクセス

女川フューチャーセンターCamass

女川町女川浜字大原75-7 TEL: 0225-98-7175



東日本大震災から6年。地域の復興に向けた企業とNPOのこれまでとこれから ダイアログ・セッション FAX 参加申込用紙

事務局（みやぎ連携復興センター）宛 FAX 022-748-4552

参加会場	<input type="checkbox"/> 2/17（金）気仙沼セッション <input type="checkbox"/> 3/3（金）女川セッション	
ご所属 （団体・会社）		
参加代表者 肩書・ご氏名		
参加代表者 ご連絡先	Email: <input style="width: 90%;" type="text"/>	Tel: <input style="width: 90%;" type="text"/>
同行者がいる場合 の肩書・氏名		
アンケートへのご協力をお願いします	震災からの復興に向けて、 1 企業とNPOの協働による取組を推進していますか？	<input type="checkbox"/> している（してきた） <input type="checkbox"/> していない
	1で「している」と答えられた方にお聞きます。あなたの経験上、企業とNPOが協働することのメリット（利点・価値）・ポイント（要点）は何ですか？	協働のメリットは、 協働のポイントは何ですか？
	1で「していない」と答えられた方にお聞きます。していない理由は何ですか？	